

すべてのステークホルダーの皆さまへ



**本格的な利益拡大を目指す  
新たなステージへ**

日本の通信市場においては、スマートフォンへのシフトが通信料収入の増収機会を生む一方で、増大するモバイルトラフィックをいかに効率的に収容するかがモバイル通信事業者共通の課題となっています。また、端末・ネットワークでの通信事業者間の差別化が困難になる中、競争環境は新たな局面を迎えています。

KDDIはこのような環境変化に対応し、モバイルと固定、両方のネットワークを併せ持つ強みを生かした「3M戦略」を事業戦略の中核に据え、2013年3月期を「成長起点の年」と位置づけ、3M戦略の本格展開に取り組んでまいりました。その軸となる「auスマートバリュー」の契約数は期初計画を大幅に上回り、モバイル・FTTHともに新規契約の獲得に大きく貢献しました。また、スマートフォンの好調な販売がデータARPUを押し上げ、2013年2月にはau通信ARPUが月次ベースで底打ちしたこともあり、過去最高の連結営業収益・営業利益を達成しました。

2014年3月期は、本格的な利益拡大を目指す新たなステージの初年度として、さらなる増収増益を目指すとともに、20%を超える営業利益成長を目標に掲げました。この目標は、モバイル通信料収入の5期ぶりの増収転換や、FTTHの契約拡大に伴う固定通信料収入の安定的な増収に加え、2013年4月に連結化した株式会社ジュピターテレコム<sup>1</sup>の連結業績への貢献などにより、着実に達成してまいります。

さらに、今後3年間の中期的な方針として、当社は「3M戦略の推進・深化」と「グローバル戦略の推進」を基本方針に据え、「連結営業利益の毎期2桁の成長」および「利益成長に伴うEPS（1株当たり当期純利益）の大幅成長」を目標に掲げて事業成長を追求してまいります。合わせて、連結配当性向目標を、これまでの「25%から30%」から「30%超」に引き上げたことにより、利益成長と株主還元の両立を図ってまいります。

一方、こういった新たなステージにおいても、忘れてはならない使命があります。それは、絶え間ない通信サービスの提供や新しい社会的価値のあるサービスの提供など、事業を通じて豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献することです。この使命を全うするため、KDDIのあるべき姿を示した「KDDIフィロソフィ」を全社員が共有し、一丸となって使命を遂行してまいります。

KDDIは、あらゆる事業活動を通じて、世界中の人々に感動・安心・幸せ・笑顔をお届けし、社会の発展に寄与するとともに、持続的な利益成長と株主還元の強化により、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

2013年7月

田中孝司

KDDI 株式会社 代表取締役社長 たなか たかし 田中 孝司